

# 近世後期における大津銭相場の変動

—大阪との対比において—

草 野 正 裕

はじめに

I 大津銭相場

II 大津銭相場と大阪銭相場

おわりに

はじめに

本稿は、近世後期における大津銭相場の変動を、大阪との対比において論じたものである。

筆者はこれまでに、「近世後期における大阪と江戸の銭相場—金（銀）相場との対比において—」<sup>(1)</sup>、「[統] 近世後期における大阪と江戸の銭相場—金（銀）相場との対比において—」、および「近世後期における京都銭相場の変動—大阪および江戸との対比において—」などの論稿をおおやけにし、三都

---

(1) 筆者はこれまでに金（銀）銭相場の動向について、下記のような論稿をおおやけにしている。拙稿「近世後期における三都の金（銀）相場」『甲南経済学論集』44巻2号（2003年）、同「江戸末期（文政～幕末期）における土佐・徳島・姫路の金相場—大阪との比較において—」『甲南経済学論集』44巻4号（2004年）、同「幕末期における西摂・北摂池田の金相場—大阪との比較において—」『甲南経済学論集』46巻1号（2005年）、同「近世後期における大津・福井の金相場—大阪との比較において—」『甲南経済学論集』48巻3号（2007年）、同「近世後期における大阪と江戸の銭相場—金（銀）相場との対比において—」『甲南経済学論集』51巻1・2・3・4合併号（2011年）、同「[統] 近世後期における大阪と江戸の銭相場—金（銀）相場との対比において—」『甲南経済学論集』52巻3・4合併号（2012年3月）、同「近世後期における京都銭相場の変動—大阪および江戸との対比において—」『松山

の銭相場変動について考察してきた。銀遣い圏である大阪と京都の銭相場動向には大きな差異は認められなかったが、金遣い圏江戸の銭相場動向は大阪や京都との比較で、大きな相違があることが指摘された。

もともと、物価や金相場だけでなく銭相場についても、三都のみならず地方の銭相場データも検討して、地域差の問題に迫ろうというのが当初の目的であった。そこで今回手始めとして、大津の銭相場を取り上げ大阪との対比において検討することとした。結論的には、大津も三都同様天領であって、藩札流通の影響もなく、銀遣い圏である大阪や京都の銭相場動向と大きな相違はなかったといえるであろう。

ここで、本論に入る前に、天領大津の近世代官支配について簡単な説明を与えておくこととした<sup>(2)</sup>。

大津における代官支配について、<sup>(3)</sup>『大津市志』を参照しながらかんたんに経緯を述べるとつぎのようになる。まず、徳川氏は、1617（元和3）年にはじめて大津代官所を置いた。組同心18名を配置し、幕府直轄の地と定めて、伝馬所を置き人馬の継ぎ立てを担当させた。小野總左衛門が代官を命ぜられ、ついで1650（慶安3）年に小野喜左衛門、1672（寛文12）年に小野半之助、1699（元禄12）年に雨宮庄九郎、1711（正徳元）年に雨宮源次郎などが相次いで職を襲った。そして1713（正徳3）年に、雨宮氏に代わって古郡文右衛門が襲職した。この間、大津市街の賑わいは年をおって増大した。1719（享保4）年の調査によると、人家は5,142戸、人口17,481人、僧163人、山伏8

---

大学論集』24巻4-2号（2012年10月）、同「近世後期における京都金相場の変動—大阪および江戸との対比において—」『国民経済雑誌』207巻1号（2013年）経済学特集号「経済史のフロンティア」所収、同「近世後期における京都金相場の変動—大阪および江戸との対比において—」『甲南経済学論集』、54巻3・4合併号（2014年）草野正裕教授退職記念号所収。

(2) 前掲拙稿「近世後期における大津・福井の金相場」、5～6ページ。

(3) 大津市私立教育會『大津市志』上巻（淳風房、1911年）、103～4ページ。

## 近世後期における大津銭相場の変動

人、神社14、寺院66を数えるようになったという。

ところが1722（享保7）年、大津代官が廃止されることとなり、以後京都町奉行の支配下に入った。しかし幕府は、1771（明和8）年再び代官を置くこととし、石原清左衛門が職に就いた。その子孫が数世相次いで襲職した。1843（天保14）年石原氏に代わって都築金三郎が代官職に就き、大いに宿弊を矯正し、町治を整理し、市民は前途に望みを抱いたという。1848（嘉永元）年（あるいは2年ともいう）に多羅尾久右衛門が代官職を兼治したが、1849（嘉永2）年に石原清左衛門の再任するところとなり、1855（安政2）年には石原清一郎がこれを継いだ。しかし明治維新となって、大津代官所は廃止され大津裁判所に所属することになった。

### Ⅰ 大津銭相場

本節では、大津銭相場の変動を、大津金相場との対比で検討することとしたい。

大津金相場の系列は、筆者が整理作成したものである。<sup>(4)</sup> 図1 A 下段には、その各年値がグラフ化されている（金1両につき銀匁、半対数目盛）。また図1 B 下段には、その5ヵ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（金1両につき銀匁、半対数目盛）。

大津金相場は、鶴岡美枝子氏が「近世米穀取引市場としての大津」<sup>(5)</sup> という

---

(4) 前掲拙稿「近世後期における大津・福井の金相場」、2～3 ページ。

(5) 鶴岡美枝子「近世米穀取引市場としての大津—近江湖東農村商人の相場帳の紹介（二）—」『史料館研究紀要』5号（1972年）。原史料は、近江国蒲生郡鏡村の米商人が遺した玉尾家文書（国立史料館蔵）のうち、宝暦～安政年間の「万相場日記」である。この史料をもちいた研究としては、新保博「銭相場の変動、1789—1867年—一つの数量的接近—」『国民経済雑誌』137巻1号（1978年）があり、「自宝暦五年至安政六年大津穀類其他相場表」のうち、金相場、銭相場の月別相場が分析されている。さらに、同「江戸後期における物価の地域差—近世物価史へのひとつの接近として—」『国民経済雑誌』139巻5号（1979年）においても当該資料のうち物価データが利用されている。また、同史料をもちいた研究として、岩橋勝『近世日本

図1 A 大津銭相場（対大津金相場）

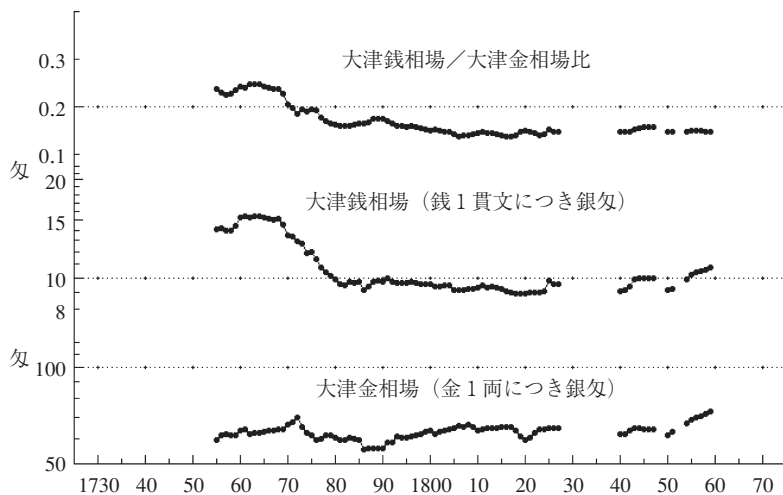
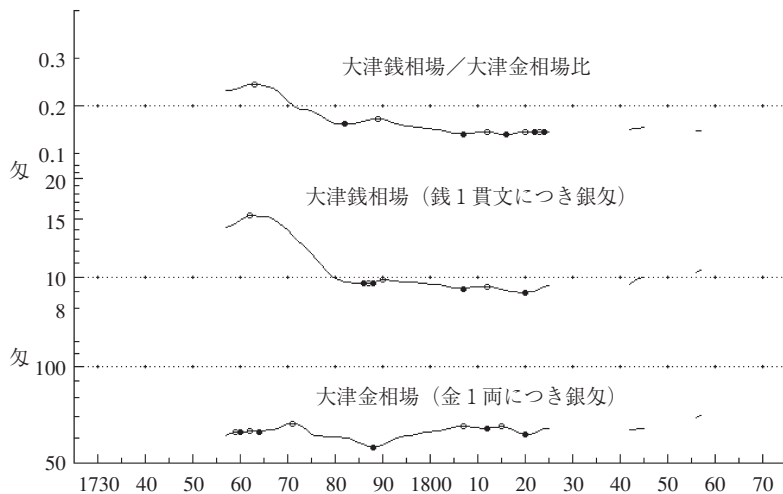


図1 B 同上5ヵ年移動平均と峰および谷



物価史の研究—近世米価の構造と変動—（大原新生社，1981年），第3部第6章がある。巻末に付表2として，氏作成の「近江仁正寺藩八幡弘米価格」が掲げられて

### 近世後期における大津銭相場の変動

論文において、付表として掲げられた「自宝暦五年至安政六年大津穀類其他相場表」のうち「金（売）1両ニ付銀匁」の系列をもちいている。

この系列によると、ほとんどの場合、各年について月毎の金相場を知ることができるが、ここではこれらを適宜平均して、最終的には各年に一つの金相場というふうにとめることとした。この結果、たとえば1755（宝暦5）年の大津金相場は、金1両につき銀59.55匁というように表示される。なお、月毎の金相場には、「日付」、「出」、「出し」、「売」、「正出し」、「買」、「うり」、「正味」、のような語ないしは注記が付けられている場合がかなりある。しかし、今回の加工処理においてこの点を反映することはできなかった。また、1845（弘化2）年の月毎金相場の一部について、原料料鼠害のため判読不能の部分があるという。

ついで大津銭相場の系列も筆者が整理作成したものである。図1 A中段には、その各年値がグラフ化されている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。また図1 B中段には、その5ヵ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。

大津銭相場の場合も依拠した資料は大津金相場の場合と同じである。鶴岡美枝子氏が「近世米穀取引市場としての大津」という論文において、付表として掲げられた「自宝暦五年至安政六年大津穀類其他相場表」のうち「銭1貫文ニ付銀匁」の系列をもちいている。

この系列についても、ほとんどの場合、各年について月毎の銭相場を知る

---

おり、その中に両替相場（金1両につき銀匁）の記載がある。ただし、年平均相場ではなく、おおむね年末の相場である。なおまた近年では、高槻泰郎『近世米市場の形成と展開—幕府司法と堂島米会所の発展—』（名古屋大学出版会、2012年）においても「万相場日記」がもちいられている。

(6) 月によっては金相場がある幅をもって示されていることがあり、その場合はその最高値と最低値の平均をこの月の金相場とみなした。

(7) この場合も、月によっては銭相場がある幅をもって示されていることがあり、その場合はその最高値と最低値の平均をこの月の銭相場とみなした。なお、1760

ことができるが、ここではこれらを適宜平均して、最終的には各年に一つの銭相場というふうにとどめることとした。この結果、たとえば1755（宝暦5）年の大津銭相場は、銭1貫文につき銀14.13匁というように表示される。なお、月毎の銭相場には、「出し」「うり」「かい」「正味」「正味相場カ以下売の記載なし」「原史料鼠害のため判読不能」のような語ないしは注記が付けられている場合がかなりある。しかし、今回の加工処理においてこの点を反映することはできなかった。

\*

さて、図1A、図1Bの観察に移ることとしたい。図1A下段、図1B下段の大津金相場の変動については既稿で分析したので、ここでは簡単に繰り返すにとどめたい。<sup>(8)</sup>

まず、図1A下段、図1B下段の大津金相場の変動を見ると、いくつかの明瞭なサイクルを見いだすことができる。1750年代から上昇しはじめた大津金相場は、1771（明和8）年に峰に達し、その後、1788（天明8）年の谷に向かって下降した。ついで金相場は再び上昇をはじめ、1810年前後の峰を経て、1820（文政3）年の谷へと下降している。

残念ながら、その後はデータに欠年が多くなっているが、大津金相場の動向と同じように動いた大阪金相場を参考にすると（文政期以前、大津と大阪で、五カ年移動平均の峰および谷はだいたい一致していた）、大津金相場は、1820（文政3）年の谷以降、二つぐらいのサイクルを経て、1850（嘉永3）年の谷の後は、一方的な上昇の傾向であったことが読み取れよう。<sup>(9)</sup>

---

（宝暦10）年1月5日の銭相場は、15.35～15.06匁となっているが、他のデータは多くの場合小数点以下2位の数字は0か5となっているので、この15.06は誤植であろうと考え、とりあえず15.35～15.60匁として平均を計算した。

（8） 前掲拙稿「近世後期における大津・福井の金相場」、3ページ。

（9） 欠年を別とすれば大津金相場と大阪金相場は、趨勢的にはほぼ同じように動いた。また、大津と大阪両地金相場の5カ年移動平均の系列を見ると、大津と大阪で

### 近世後期における大津銭相場の変動

つぎに、図1 A中段、図1 B中段に描かれた大津銭相場の動向に目を移すと、図1 B中段の大津銭相場5ヵ年移動平均系列は、1760年代に峰を記録し(1762(宝暦12)年の値、銭1貫文につき銀15.41匁が近傍ではもっとも大きい)、その後急降下している。そして、1780年代から1820(文政3)年にかけては、一時期上昇局面(1788(天明8)年～90(寛政2)年、1807(文化4)年～12(文化9)年)を含むも、おおむね下降の趨勢であった。その後は、残念ながらデータに欠年が多くなっているが、大津金相場の場合と同様、1820(文政3)年以降、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっているようである。

つぎに、図1 A上段、図1 B上段の大津銭相場／大津金相場比5ヵ年移動平均の系列に目を移すと、はじめこの比は上昇するが、1763(宝暦13)年に峰に達したのち、1807(文化4)年の谷に向かって下落の趨勢となる。途中、1782(天明2)年を谷とし、1789(寛政元)年を峰とする短い上昇期間が観察されるが、これは大津金相場に見られる1780年代前半を峰とし、1788(天明8)年を谷とする短い下降期間に対応するものである。

残念ながら、その後はデータに欠年が多くなっているが、1807(文化4)年からはゆるやかな上昇局面に入り、1840年代後半に峰に達するが、以後はやや下落の趨勢となっていることが読み取れよう。

以上の観察結果について、大津銭相場は、大津金相場との対比でどのように変動したかという観点から要約すると、つぎのように言うことができよう。

1750年代から60年代前半にかけて、大津金相場、大津銭相場ともに上昇するが、銭相場のほうが上昇圧力は大きく、したがって大津銭相場／大津金相場比は上昇した。

1760年代後半から70年代にかけて、大津金相場はなお上昇するが、銭相場

---

峰および谷はだいたい一致していた。同上、3ページ。

はひとりいち早く急速な下落を開始する。この結果、大津銭相場／大津金相場比も急速に下落することとなる。

1770年代および80年代前半にかけては、金相場、銭相場ともに下落の趨勢であるが、銭相場のほうが下降の圧力が大きく、したがって大津銭相場／大津金相場比は急速に下落した。

1780年代については、先に述べたように、大津金相場は下落しているが、銭相場は横ばいの趨勢であったから、大津銭相場／大津金相場比は一時的に上昇することとなった。

1790年から1820年にかけては、大津金相場は、上昇の傾向となり、1810年ごろのピークを経て、以下1820年の谷に向かって下降するが、銭相場のほうは、この間、ほぼ下降の趨勢にあった。したがって、1790年ごろから1810年ごろまでの20年間は、両者は逆の方向に動いたことになる。<sup>(10)</sup>この結果、大津銭相場／大津金相場比は、1810年ごろまでは下落の傾向であったが、その後は、金相場のほうが、下降圧力が大きく、この比は不変ないしはやや上昇の傾向となった。

残念ながら、その後はデータに欠年が多くなっているが、先にも述べたように、大津銭相場／大津金相場比は、1807（文化4）年からはゆるやかな上昇局面に入り、1840年代後半に峰に達するが、以後はやや下落の趨勢となっている。敷衍すれば、図1 A、図1 Bからも観察されるように、1820年から50年までの時期について、金相場は横ばいと考えられるのに対し、銭相場は上昇の傾向にあったから、結果として、大津銭相場／大津金相場比はやや上昇の傾向となったのである。

これは、大阪銭相場／大阪金相場比の場合と同じ傾向である。<sup>(11)</sup>また、京都

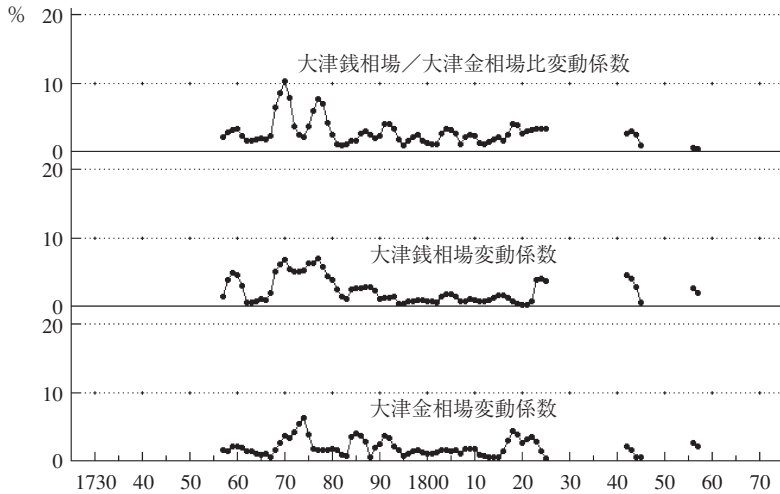
---

(10) この点については、大阪および京都の場合も同様のことが言えた。前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、7ページ。同「近世後期における京都銭相場の変動」、130ページ。



近世後期における大津銭相場の変動

図2 大津銭相場の変動係数



銭相場／京都金相場比の場合も同じ傾向である<sup>(12)</sup>。しかし、江戸銭相場／江戸金（銀）相場比の場合は不変の傾向であったから、京大阪および大津と江戸では金銭相場動向の態様は異なっていたと言えるであろう<sup>(13)</sup>。

1850年代以降は、大津金相場も大津銭相場も急速な上昇の傾向となったが、金相場のほうがやや上昇圧力が大きく、この結果、大津銭相場／大津金相場比は、わずかながら下落の傾向となった。

\*

次に、変動係数のグラフをもちいて、大津銭相場の変動の激しさを、大津金相場のそれとの対比で検討することとしたい。

図2の変動係数のグラフは、この目的のために作成したものである。下段には大津金相場、中段には大津銭相場、上段には大津銭相場／大津金相場比

(11) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、7ページ。

(12) 前掲拙稿「近世後期における京都銭相場の変動」、131ページ。

(13) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、24ページ。

のそれぞれ5年期ごとの変動係数が図示されている。

変動係数は、いくつかの変量について、標準偏差が平均の何%にあたるかというかたちで定式化される。グラフ化に際しては、1755（宝暦5）年から1759（宝暦9）年の5年間の変動係数を、その中央年である1757（宝暦7）年にドットするというふうに、いわば「5ヵ年移動変動係数」とでも呼べるようなかたちで処理されている。本論文で変動係数をもちいたのは、このタームをたんに変動の激しさを表わす目安にしようというにすぎない。変動係数をもちいることによって、大津金相場、大津銭相場、大津銭相場／大津金相場比の系列が、実際にどの程度の幅で変動していたか、あるいは変動しなかったかが明らかとなる。<sup>(14)</sup>

\*

さて図2の観察に移る。1750、60、70年代には、大津金相場に比べて大津銭相場の変動が大きいようである。1840年代においても同様のことがいえると思われる。

大津銭相場／大津金相場比の変動係数は1760年代から70年代にかけて大きくなっている。これは同時期に、大津金相場と大津銭相場、とくに銭相場が大きく変動したことの反映であると考えられる。

大津金相場および大津銭相場の変動係数から見た変動のパターンは、大阪<sup>(15)</sup>、京都<sup>(16)</sup>のそれと類似しているが、江戸<sup>(17)</sup>の場合とは異なっている。

\*

ついで、大津金相場と大津銭相場の時期ごとの相関の度合いを検討することとしたい。

---

(14) 以上の統計操作については、拙著『近世の市場経済と地域差—物価史からの接近—』（京都大学学術出版会、1996年）、21～22ページ。

(15) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、8ページ、図2。

(16) 前掲拙稿「近世後期における京都銭相場の変動」、132ページ、図2。

(17) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、25ページ、図5。

図3 大津銭相場と大津金相場の相関係数

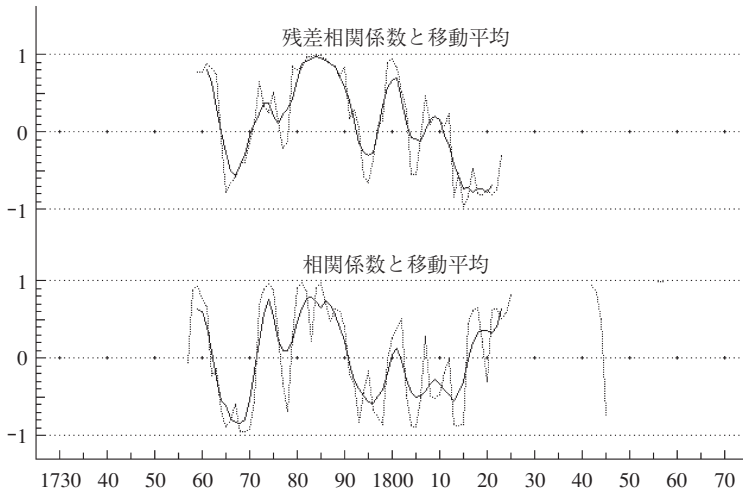


図3は、大津金相場と大津銭相場の相関係数をグラフ化したものである。下段点線はいわば「5カ年移動単純相関係数」とでも呼ぶべきもので、グラフ化にさいしては、たとえば、1755（宝暦5）年から1759（宝暦9）年の5年間の相関係数を、その中央年である1757（宝暦7）年にドットするというふうな処理を、繰り返し行なっている。

つぎに、上段点線は「5カ年移動残差相関係数」とでも呼ぶべきものである。残差相関係数の計算過程はつぎの通りである。すなわち系列のそれぞれについて、まず、各年値マイナス5カ年移動平均値（すなわち残差）を算出し、しかるのち、これら残差系列間で相関をとっている。グラフ化にさいしては、たとえば、1755（宝暦5）年から1759（宝暦9）年の5年間の残差相関係数を、その中央年である1757（宝暦7）年にドットするというふうな処理を、繰り返し行なっている。

はじめの単純相関係数をもちいると、それぞれの系列がともに上昇趨勢、

あるいは下降趨勢にあるような場合、短期的な相関を見いだしにくいというようなことがあります。そこで、後者の残差相関係数をもちいることにすれば、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめることが可能になると考えられる。

下段上段いずれの場合も実線は、平滑化の目的で、「5カ年移動相関係数」のさらに5カ年移動平均をとったものをあらわしている。<sup>(18)</sup>

\*

さて、図3をもちいて、大津金相場と大津銭相場の時期ごとの相関の度合いを観察することとしたい。この場合、いま述べたように、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめたいという理由から、残差相関を中心に見ていくこととしたい。

上段の残差相関係数と移動平均のグラフを見ると、おおざっぱに言って、正の相関と負の相関が交互にあらわれている。しかし、文政期（1818～29年）以降になると、下段点線の断片的な単純相関係数（あるいは付表2（その4））によるかぎり、相当程度正の相関を示していると言えよう。

もうすこしくわしく見ると、1760年前後には金相場と銭相場の相関が強まっている。この時期には、両相場とも上昇の傾向にあり、両者のピークも一致しているから、これらのことが影響したと思われる。

1765年～1780年ぐらいにかけては、一転、逆相関の傾向が観察されるが、これは、1760年代後半に、銭相場が急速に下落するのにたいして、金相場はやや上昇の傾向となっていたことなどが反映している。

1780年代には、金相場と銭相場はふたたび正に相関している。

しかし、1790年代から19世紀10年代にかけては、一時期やや正に相関する局面もあるが負に相関する場合も多い。この時期は、対象とした期間のなか

---

(18) 以上の統計操作については、前掲拙著『近世の市場経済と地域差』、43～44ページ。

## 近世後期における大津銭相場の変動

では、例外的に、大津金相場が上昇の傾向となっているのにたいし、大津銭相場は逆に下降の傾向となっていて、まったく正反対の動きを示している。両者の相関が負の方向にふれがちなのは、このためである。

ところで、この金相場と銭相場の相関については、旧稿<sup>(19)</sup>で見た京都の場合もほぼ同じような傾向が観察された。また旧稿<sup>(20)</sup>で検討した大阪の場合もやや類似の傾向が観察された（もっとも1810年代は、大津の金銭相関は、大阪のそれとは大きく異なっていた）。しかし、これも旧稿<sup>(21)</sup>で検討した江戸の場合は相当程度様子が異なった。江戸の場合は対象とした期間のほぼ全期を通じて、金相場と銭相場は強く相関していたのである。このようなことはこれまで指摘されたことはなかったが、金遣い圏江戸においては、銀遣い圏、京大阪および大津以上に金と銭は強く連動していたと考えられよう。

## II 大津銭相場と大阪銭相場

本節では、大津銭相場の変動を、大阪銭相場との対比で検討することとしたい。図4 A、図4 Bは、大津銭相場を大阪銭相場との対比でグラフ化したものである。

ここで用いた大阪銭相場の系列は、新保博氏が作成されたものである<sup>(22)</sup>。図4 A下段には、この大阪銭相場の各年値がグラフ化されている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。また図4 B下段には、その5カ年移動平均値と波動の峰（○）と谷（●）が描き込まれている（銭1貫文につき銀匁、半対数目盛）。

---

(19) 前掲拙稿「近世後期における京都銭相場の変動」、134ページ、図3。

(20) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、11ページ、図3。

(21) 同上、27ページ、図6。

(22) 新保博『近世の物価と経済発展—前工業化社会への数量的接近—』（東洋経済新報社、1978年）、171～176ページ。なお、原資料は『大阪金銀米銭為替日々相場表』など。

図4 A 大津銭相場（対大阪銭相場）

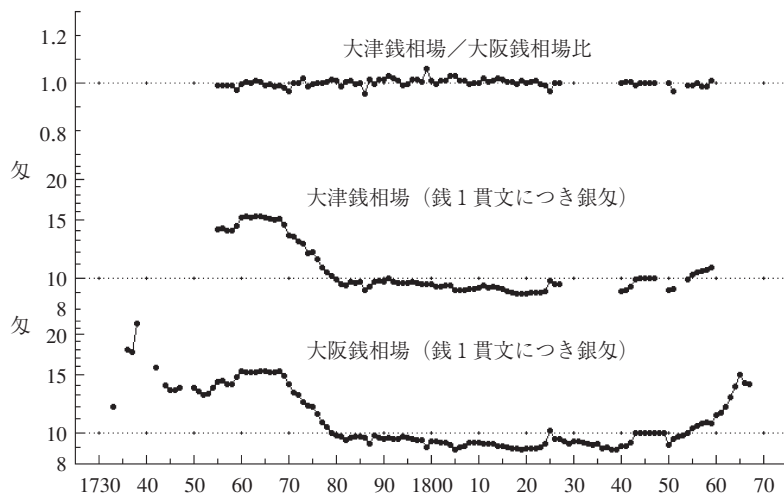
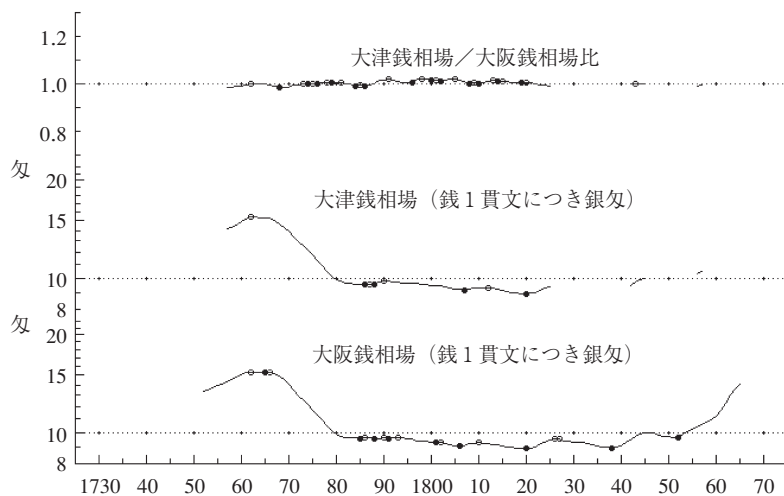


図4 B 同上5ヵ年移動平均と峰および谷



### 近世後期における大津銭相場の変動

つぎに、図4 A中段には、先の大津銭相場の各年値がグラフ化されている(銭1貫文につき銀匁、半対数目盛、図1 A中段の再掲)。また図4 B中段には、その5カ年移動平均値と波動の峰(○)と谷(●)が描き込まれている(銭1貫文につき銀匁、半対数目盛、図1 B中段の再掲)。

さらに、図4 A上段には、大津銭相場/大阪銭相場比(単位1、普通目盛)がグラフ化されている。また、図4 B上段には、その5カ年移動平均値と波動の峰(○)と谷(●)が描き込まれている(単位1、普通目盛)。

#### \*

図4 A、図4 Bのいずれも下段に描き込まれた大阪銭相場の変動については、旧稿<sup>(23)</sup>ですでにくわしく観察しているので、ここではかんたんに繰り返すにとどめたい。図4 A下段をみると、大阪銭相場における1730年代の上昇は、1738(元文3)年にピークに達し、以後下落して1752(宝暦2)年に底値に達した。

1752(宝暦2)からは5カ年移動平均の系列をみると、大阪銭相場は、1760年代に峰を記録し、その後急降下している。そして1780年代から1820(文政3)年にかけては、引きつづきおおむね下降の趨勢であった。

しかし、1820(文政3)年以降は、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれているのは、大阪金相場の場合と同様である。

つぎに、図4 A、図4 Bいずれも中段の大津銭相場の変動についてであるが、これもすでに本稿I節でくわしく観察しているので、ここではかんたんに繰り返すにとどめたい。

図4 B中段の大津銭相場5カ年移動平均系列は、1760年代に峰を記録し、その後急降下している。そして、1780年代から1820(文政3)年にかけては、

---

(23) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、4～5 ページ。

一時期上昇局面を含むも、おおむね下降の趨勢であった。その後は、データに欠年が多くなっているが、1820（文政3）年以降、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっているようである。

図4 A、図4 B上段の大津銭相場／大阪銭相場の動向に目を移すと、大津／大阪比はおおむね1.0の水準を中心に微動しているにすぎないから、大津と大阪の銭相場はほぼ平行に動いたことがわかる。

詳細を見ると（グラフ上では識別しにくい）、1755（宝暦5）年～1785（天明5）年ぐらひは大津銭相場が安く、1790（寛政2）年～1820（文政3）年ぐらひは大津銭相場が高く、1820（文政3）年から1850（嘉永3）年ぐらひまでは横ばい、1850（嘉永3）年以降は大津銭相場が安かった。

旧稿<sup>(24)</sup>で見たように、京都銭相場／大阪銭相場の比も大津／大阪比と同様の動きを示しているから、大津銭相場、京都銭相場、大阪銭相場の三者はほぼ同様に動いたことになる。大津、京都、大阪は距離的に近くいずれも天領であり、藩札等の影響が少なく同様の傾向を示したものと考えられる。

しかし、旧稿<sup>(25)</sup>で見たように、江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場の場合は、全体として江戸の匁建換算銭相場が大阪のそれよりも高かった。とくに1780年ごろから1810年ぐらひにかけての時期が、もっとも江戸匁建換算銭相場が大阪の銭相場にくらべて高く、10パーセント以上高い年も6、7回あった。したがって、京大阪、大津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い京大阪、大津（いずれも天領）の場合と比べると、金遣い江戸では一般に銭高でやや様子が異なっていたことがわかる。

\*

つぎに、図5は、大津銭相場の変動の激しさを、大阪銭相場のそれとの対

---

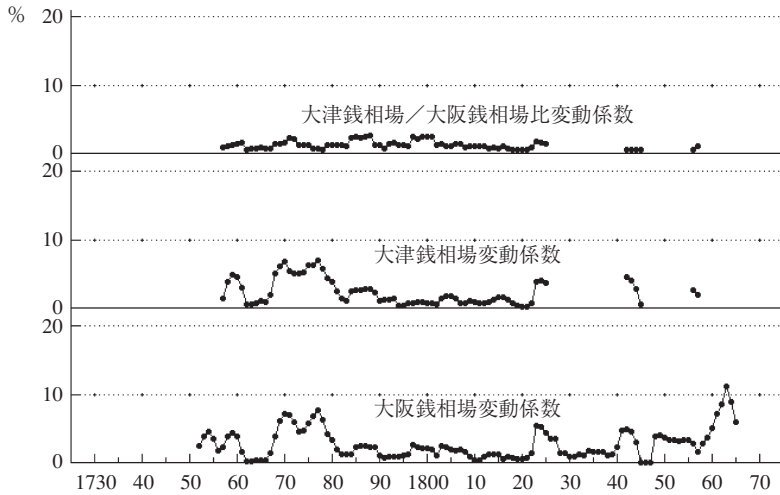
(24) 前掲拙稿「近世後期における京都銭相場の変動」、137ページ、図4 A、図4 B。

(25) 前掲拙稿「〔統〕近世後期における大阪と江戸の銭相場」、59ページ、図7 A、図7 B。



近世後期における大津銭相場の変動

図5 大津銭相場の変動係数（大阪銭相場との対比）



比において検討する目的で作成したものである。統計処理は、先の図2の場合とまったく同じである。下段には大阪銭相場の5年期ごとの変動係数、中段には大津銭相場の5年期ごとの変動係数（図2中段の再掲）、上段には大津銭相場／大阪銭相場比の5年期ごとの変動係数が図示されている。

\*

さて図5の観察に移る。まず、図5下段に描き込まれた大阪銭相場の変動については、旧稿<sup>(26)</sup>で、すでにくわしく観察しているので、ここではかたんに繰り返すにとどめたい。図5下段をみると、大阪銭相場の変動係数は、（大阪金相場にくらべると）大きいときがある。とくに1750年代、1760年代後半～70年代、1820年代、1840年代には銭相場の変動係数が大きくなっている。

(26) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、9ページ。

しかし、幕末期の最後の2、3年は、逆に、(大阪金相場にくらべて)大阪銭相場の変動係数は小さくなっている。

つぎに、図5中段の天津銭相場の変動についてであるが、これもすでにI節で見たように、変動係数は、1750、60、70年代には、天津金相場に比べて大阪銭相場の変動が大きいようである。1840年代においても同様のことがいえると思われる。

図5上段の天津銭相場／大阪銭相場の比の変動係数は、一見して明らかなように、3%の水準を超えることはなく、この比はすこぶる安定的に推移したことがわかる。この点は、先に見たように、天津銭相場／大阪銭相場の比がほぼ1.0の水準を前後していたことからもうなずけるところである。

もう少し詳しく見てみると、一般に、大阪銭相場の変動に比べて、天津銭相場の方が変動が大きいことが多いようである。もっとも、1770年代は大阪の変動係数の大きさが目につくが、天津はやや小さかった。このことは1820年代についても当てはまる。

旧稿<sup>(27)</sup>で述べたように、江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場の比の変動係数は、全体に大きく、とくに1781(天明元)年から1798(寛政10)年くらいにかけて大きくて10%に迫っていた。

したがって、京大阪、天津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い圏京大阪、天津(いずれも天領)の場合と比べると、金遣い圏江戸は、相当程度様子が異なっていたということになる。

\*

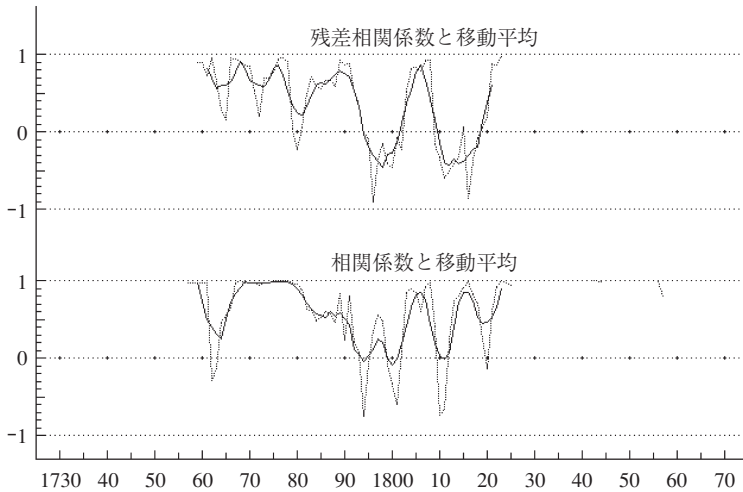
つぎに、図6は、天津銭相場と大阪銭相場の相関係数をグラフ化したものである。統計処理は、図3の場合とまったく同じである。下段点線はいわば「5ヵ年移動単純相関係数」とでも呼ぶべきもので、また上段点線は「5ヵ

---

(27) 前掲拙稿「[統] 近世後期における大阪と江戸の銭相場」, 62ページ。

近世後期における大津銭相場の変動

図6 大津銭相場と大阪銭相場の相関係数



年移動残差相関係数」とでも呼ぶべきものである。下段上段いずれの場合も実線は（平滑化の目的で）「5カ年移動相関係数」のさらに5カ年移動平均をとったものをあらわしている。図6の観察についても、原系列の趨勢に左右されない短期的な相関を見きわめたいという理由から、残差相関の系列を中心にみていくこととしたい。

ところで、下段点線の「5カ年移動単純相関係数」のグラフにおいて、1845（弘化2）年については単純相関係数をドットすることができなかった。これは、1842（天保13）年から1849（嘉永2）年まで幕府によって銭相場が公定され<sup>(28)</sup>、大阪銭相場も1843（天保14）年から1849（嘉永2）年まで、銭1貫文につき銀10匁の水準に張り付いて動かなかったことが原因である。このために、1843～47年の単純相関係数は、相関係数の公式の分母にくる大阪銭

(28) 大蔵省編『大日本貨幣史』8巻（1926年）、113～114ページ。

相場の分散あるいは標準偏差がゼロになるので、相関係数の値を計算することができなかった。したがって、5年間の相関係数の中央年である1845年は相関係数をグラフ上にドットすることができなかったのである。

\*

さて、図6をもちいて、大津銭相場と大阪銭相場の相関の度合いを観察することとしたい。

残差相関の系列によると、大津と大阪ではやはり強い相関が認められることが多い。しかし、1790年代半ばから1800年ごろにかけて、および1810年代のように、大津と大阪で逆に相関する場合もあった。これらの特徴は、京都と大阪両地の相関の場合とあまり変わらないと考えられる。<sup>(29)</sup>

旧稿<sup>(30)</sup>で見た大阪銭相場と江戸匁建換算銭相場の相関は、基本的には幕末期にかけて正に相関していたと考えられる。とくに1840年代後半、1850年代後半において正相関は顕著であった。しかしそれ以前は、正に相関する時期と負に相関する時期が交互に現れ、全体として正に相関したとは言えなかった。したがって、京大阪、大津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い圏京大阪、大津（いずれも天領）の場合と比べると、金遣い圏江戸は、またしても相当程度様子が異なっていたということになる。

おわりに

ここでは、近世後期における、大阪との比較から見た大津銭相場の変動について、本稿で明らかになったいくつかの重要な点を簡単に要約しておくこととしたい。なお本稿では、銭相場変動についての観察事実を、たとえば銭座の開設、大量鋳造、鋳造の停止のような貨幣供給と結びつけて考察するという作業をほとんど行っていない。旧稿で大阪と江戸の銭相場を検討した際

---

(29) 前掲拙稿「近世後期における京都銭相場の変動」、142ページ、図6。

(30) 前掲拙稿「[続] 近世後期における大阪と江戸の銭相場」、63ページ、図9。

### 近世後期における大津銭相場の変動

に、このような問題をある程度取り上げたので、本稿では繰り返しを避けることとした。

まず、大津銭相場は、1760年代に峰を記録し、その後急降下している。そして、1780年代から1820（文政3）年にかけては、一時期上昇局面を含んでいるが、おおむね下降の趨勢であった。その後は、データに欠年が多くなっているが、大津金相場の場合と同様、1820（文政3）年以降、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっているようである。

つぎに、大津銭相場／大津金相場比の系列をみると、はじめこの比は上昇するが、1763（宝暦13）年に峰に達したのち、1807（文化4）年の谷に向かって下落の趨勢となる。途中、1782（天明2）年を谷とし、1789（寛政元）年を峰とする短い上昇期間が観察されるが、これは大津金相場に見られる1780年代前半を峰とし、1788（天明8）年を谷とする短い下降期間に対応するものであった。その後はデータに欠年が多くなっているが、1807（文化4）年からはゆるやかな上昇局面に入り、1840年代後半に峰に達するが、以後はやや下落の趨勢となっていた。

敷衍すれば、図1A、図1Bからも観察されるように、1820年から50年までの時期について、金相場は横ばいと考えられるのに対し、銭相場は上昇の傾向にあったから、結果として、大津銭相場／大津金相場比はやや上昇の傾向となったのである。

これは、大阪銭相場／大阪金相場比の場合と同じ傾向であった。また、京都銭相場／京都金相場比の場合も同じ傾向である。しかし、江戸銭相場／江戸金（銀）相場比の場合は不変の傾向であったから、京大阪および大津と江戸では金銭相場動向の態様は異なっていたと言えるであろう。

京大阪および大津においては、銭がやや稀少ないし銭不足の状態になって

---

(31) 前掲拙稿「近世後期における大阪と江戸の銭相場」、13～18ページ。

いたと考えられる。あるいは、銀目よりもしだいに銭が選好されるようになってきたとも言えよう。

1850年代以降は、大津金相場も大津銭相場も急速な上昇の傾向となったが、金相場のほうがやや上昇圧力が大きく、この結果、大津銭相場／大津金相場比は、わずかながら下落の傾向となった。

つぎに、大津銭相場の変動を、大阪銭相場との対比で検討した。大阪銭相場における1730年代の上昇は、1738（元文3）年にピークに達し、以後下落して1752（宝暦2）年に底値に達した。1752（宝暦2）からは5ヵ年移動平均の系列をみると、大阪銭相場は、1760年代に峰を記録し、その後急降下している。そして1780年代から1820（文政3）年にかけては、引きつづきおおむね下降の趨勢であった。しかし、1820（文政3）年以降は、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっている。この間、2サイクル半の循環的変動が含まれているのは、大阪金相場の場合と同様である。

大津銭相場5ヵ年移動平均系列は、1760年代に峰を記録し、その後急降下している。そして、1780年代から1820（文政3）年にかけては、一時期上昇局面を含むも、おおむね下降の趨勢であった。その後は、データに欠年が多くなっているが、1820（文政3）年以降、一転、上昇の趨勢となって幕末にいたっているようである。

大津銭相場／大阪銭相場比の動向を見ると、大津／大阪比はおおむね1.0の水準を中心に微動しているにすぎないから、大津と大阪の銭相場はほぼ平行に動いたことがわかる。

京都銭相場／大阪銭相場比も大津／大阪比と同様の動きを示していたから、大津銭相場、京都銭相場、大阪銭相場の三者はほぼ同様に動いたことになる。大津、京都、大阪は距離的に近くいずれも天領であり、藩札等の影響が少なく同様の傾向を示したものと考えられる。

しかし、江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場比の場合は、全体として江戸の

### 近世後期における大津銭相場の変動

匁建換算銭相場が大阪のそれよりも高かった。とくに1780年ごろから1810年ぐらいにかけての時期が、もっとも江戸匁建換算銭相場が大阪の銭相場にくらべて高く、10パーセント以上高い年も6、7回あった。したがって、京大阪、大津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い京大阪、大津（いずれも天領）の場合と比べると、金遣い江戸では一般に銭高でやや様子が異なっていたことがわかる。

#### \*

変動係数の観察によれば、1750、60、70年代には、大津金相場に比べて大津銭相場の変動が大ききようである。1840年代においても同様のことがいえると思われる。大津銭相場／大津金相場の変動係数は1760年代から70年代にかけて大きくなっている。これは同時期に、大津金相場と大津銭相場、とくに銭相場が大きく変動したことの反映であると考えられる。

大津金相場および大津銭相場の変動係数から見た変動のパターンは、大阪、京都のそれと類似しているが、江戸の場合とは異なっている。

つぎに、変動係数の観点から、大阪銭相場と大津銭相場を比較した。まず、大阪銭相場の変動係数は、（大阪金相場にくらべると）大きいときがある。とくに1750年代、1760年代後半～70年代、1820年代、1840年代には銭相場の変動係数が大きくなっている。しかし、幕末期の最後の2、3年は、逆に、（大阪金相場にくらべて）大阪銭相場の変動係数は小さくなっていた。大津銭相場の場合は、変動係数は、1750、60、70年代には、大津金相場に比べて大津銭相場の変動が大ききようである。1840年代においても同様のことがいえると思われる。

大津銭相場／大阪銭相場比の変動係数は、一見して明らかなように、3%の水準を超えることはなく、この比はすこぶる安定的に推移したことがわかる。この点は、先に見たように、大津銭相場／大阪銭相場比がほぼ1.0の水準を前後していたことからもうなずけるところである。

<sup>(32)</sup>  
旧稿で述べたように、江戸匁建換算銭相場／大阪銭相場の変動係数は、全体に大きく、とくに1781（天明元）年から1798（寛政10）年くらいにかけて大きくて10%に迫っていた。

したがって、京大阪、大津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い圏京大阪、大津（いずれも天領）の場合と比べると、金遣い圏江戸は、相当程度様子が異なっていたということになる。

\*

つぎに、大津金相場と大津銭相場の時期ごとの相関の度合いを観察した。残差相関係数と移動平均のグラフを見ると、おおざっぱに言って、正の相関と負の相関が交互にあらわれている。しかし、文政期（1818～29年）以降になると、断片的な単純相関係数によるかぎり、相当程度正の相関を示していたと言えよう。

もうすこしくわしく見ると、1760年前後には金相場と銭相場の相関が強まっている。この時期には、両相場とも上昇の傾向にあり、両者のピークも一致しているから、これらのことが影響したと思われる。1765年～1780年ぐらひにかけては、一転、逆相関の傾向が観察されるが、これは、1760年代後半に、銭相場が急速に下落するのにたいして、金相場はやや上昇の傾向となっていたことなどが反映している。1780年代には、金相場と銭相場はふたたび正に相関している。しかし、1790年代から19世紀10年代にかけては、一時期やや正に相関する局面もあるが負に相関する場合も多い。この時期は、対象とした期間のなかでは、例外的に、大津金相場が上昇の傾向となっているのにたいし、大津銭相場は逆に下降の傾向となっていて、まったく正反対の動きを示している。両者の相関が負の方向にふれがちなのは、このためである。

この金相場と銭相場の相関については、京都の場合もほぼ同じような傾向

---

(32) 前掲拙稿「[続] 近世後期における大阪と江戸の銭相場」, 62ページ。



### 近世後期における大津銭相場の変動

が観察された。また大阪の場合もやや類似の傾向が観察された（もっとも1810年代は、大津の金銭相関は、大阪のそれとは大きく異なっていた）。しかし、江戸の場合は相当程度様子が異なった。江戸の場合は対象とした期間のほぼ全期を通じて、金相場と銭相場は強く相関していたのである。金遣い圏江戸においては、銀遣い圏、京大阪および大津以上に金と銭は強く連動していたと考えられよう。

つぎに、大津銭相場と大阪銭相場の相関の度合いを観察した。残差相関の系列によると、大津と大阪ではやはり強い相関が認められることが多い。しかし、1790年代半ばから1800年ごろにかけて、および1810年代のように、大津と大阪で逆に相関する場合もあった。これらの特徴は、京都と大阪両地の相関の場合とあまり変わらないと考えられる。

旧稿<sup>(33)</sup>で見たように、大阪銭相場と江戸匁建換算銭相場の相関は、基本的には幕末期にかけて正に相関していたと考えられる。とくに1840年代後半、1850年代後半において正相関は顕著であった。しかしそれ以前は、正に相関する時期と負に相関する時期が交互に現れ、全体として正に相関したとは言えなかった。したがって、京大阪、大津、江戸における銭相場の態様は、銀遣い圏京大阪、大津（いずれも天領）の場合と比べると、金遣い圏江戸は、またしても相当程度様子が異なっていたということになる。

---

(33) 前掲拙稿「[続] 近世後期における大阪と江戸の銭相場」, 63ページ, 図9。

付表1（その1） 大津銭相場（対大津金相場）

年次	大津銭相場（銭一貫文につき銀匁）			大津金相場（金一両につき銀匁）			大津銭相場／大津金相場比（単位1）		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1733（享保18） 34（19） 35（20）									
1736（元文1） 37（2） 38（3） 39（4） 40（5）									
1741（寛保1） 42（2） 43（3） 44（延享1） 45（2）									
1746（3） 47（4） 48（寛延1） 49（2） 50（3）									
1751（宝暦1） 52（2） 53（3） 54（4） 55（5）									
	14.130			59.550			0.237		
1756（6） 57（7） 58（8） 59（9） 60（10）	14.225 14.000 13.910 14.410 15.311			61.590 61.913 61.291 61.304 63.446			0.231 0.226 0.227 0.235 0.241		
		14.135 14.371 14.609 14.883	1.38 3.90 4.89 4.60		61.130 61.909 62.424 62.421	1.50 1.45 2.10 2.10		0.231 0.232 0.234 0.238	2.12 2.70 3.06 3.33
1761（11） 62（12） 63（13） 64（明和1） 65（2）	15.413 15.371 15.471 15.469 15.250	15.195 15.407 15.395 15.360 15.304	2.91 0.44 0.59 0.74 1.07	64.166 61.900 62.676 62.334 63.109	62.698 62.904 62.837 62.744 63.082	1.83 1.44 1.38 1.11 0.93	0.240 0.248 0.247 0.248 0.242	0.242 0.245 0.245 0.245 0.243	2.21 1.59 1.56 1.70 1.95
1766（3）	15.238	15.259	0.88	63.702	63.323	0.98	0.239	0.241	1.78

近世後期における大津銭相場の変動

付表1 (その2) 大津銭相場 (対大津金相場)

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場/大津金相場比 (単位1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1767 (明和 4)	15.092	15.080	1.92	63.591	63.665	0.56	0.237	0.237	2.29
68 ( 5)	15.246	14.733	4.98	63.877	64.262	1.62	0.239	0.229	6.42
69 ( 6)	14.575	14.354	6.15	64.046	65.028	2.64	0.228	0.221	8.59
70 ( 7)	13.515	13.930	6.79	66.095	66.255	3.72	0.204	0.211	0.30
1771 ( 8)	13.342	13.419	5.37	67.532	66.548	3.28	0.198	0.202	7.81
72 (安永 1)	12.973	12.882	4.98	69.727	66.188	4.18	0.186	0.195	3.57
73 ( 2)	12.692	12.580	4.96	65.339	65.207	5.46	0.194	0.193	2.39
74 ( 3)	11.888	12.197	5.14	62.250	63.616	6.31	0.191	0.192	2.00
75 ( 4)	12.004	11.743	6.28	61.189	61.648	3.77	0.196	0.190	3.60
1776 ( 5)	11.427	11.289	6.23	59.575	60.856	1.82	0.192	0.186	5.87
77 ( 6)	10.702	10.936	7.02	59.888	60.745	1.56	0.179	0.180	7.65
78 ( 7)	10.425	10.508	5.74	61.379	60.615	1.51	0.170	0.173	6.92
79 ( 8)	10.123	10.140	4.35	61.696	60.591	1.57	0.164	0.167	4.25
80 ( 9)	9.864	9.900	3.86	60.538	60.534	1.67	0.163	0.164	2.42
1781 (天明 1)	9.587	9.759	2.51	59.453	60.331	1.48	0.161	0.162	1.12
82 ( 2)	9.502	9.668	1.42	59.606	59.920	0.82	0.159	0.161	0.82
83 ( 3)	9.718	9.642	1.00	60.364	59.660	0.71	0.161	0.162	1.10
84 ( 4)	9.671	9.558	2.47	59.639	58.809	3.50	0.162	0.163	1.63
85 ( 5)	9.732	9.531	2.64	59.239	58.085	4.01	0.164	0.164	1.60
1786 ( 6)	9.168	9.530	2.63	55.198	57.187	3.64	0.166	0.167	2.65
87 ( 7)	9.365	9.552	2.84	55.983	56.424	2.84	0.167	0.169	2.89
88 ( 8)	9.713	9.546	2.79	55.874	55.731	0.55	0.174	0.171	2.48
89 (寛政 1)	9.784	9.701	2.19	55.824	56.332	1.86	0.175	0.172	1.86
90 ( 2)	9.699	9.769	1.07	55.777	56.854	2.49	0.174	0.172	2.24
1791 ( 3)	9.946	9.756	1.19	58.204	57.815	3.57	0.171	0.169	3.94
92 ( 4)	9.704	9.726	1.30	58.592	58.733	3.37	0.166	0.166	4.02
93 ( 5)	9.649	9.710	1.40	60.676	59.705	2.02	0.159	0.163	3.32
94 ( 6)	9.634	9.662	0.43	60.414	60.239	1.55	0.159	0.160	1.82
95 ( 7)	9.615	9.643	0.41	60.639	60.818	0.67	0.159	0.159	0.84
1796 ( 8)	9.708	9.619	0.67	60.871	61.077	1.05	0.159	0.158	1.57
97 ( 9)	9.611	9.600	0.76	61.492	61.561	1.44	0.156	0.156	2.07
98 ( 10)	9.528	9.581	0.83	61.967	62.107	1.62	0.154	0.154	2.37
99 ( 11)	9.538	9.517	0.85	62.838	62.310	1.23	0.152	0.153	1.52
1800 ( 12)	9.523	9.480	0.73	63.366	62.654	1.10	0.150	0.151	1.16

付表1 (その3) 大津銭相場 (対大津金相場)

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場/大津金相場比 (単位1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1801 (享和 1)	9.388	9.462	0.69	61.887	62.993	1.09	0.152	0.150	1.04
02 ( 2)	9.425	9.443	0.53	63.214	63.228	1.28	0.149	0.149	1.12
03 ( 3)	9.436	9.367	1.35	63.659	63.491	1.65	0.148	0.148	2.59
04 (文化 1)	9.442	9.313	1.78	64.015	64.274	1.57	0.147	0.145	3.23
05 ( 2)	9.144	9.264	1.74	64.682	64.713	1.40	0.141	0.143	3.06
1806 ( 3)	9.119	9.227	1.41	65.801	65.283	1.48	0.139	0.141	2.53
07 ( 4)	9.179	9.191	0.68	65.410	65.487	1.08	0.140	0.140	1.11
08 ( 5)	9.253	9.220	0.76	66.508	65.266	1.67	0.139	0.141	2.17
09 ( 6)	9.258	9.284	1.03	65.033	64.948	1.73	0.142	0.143	2.43
10 ( 7)	9.292	9.307	0.82	63.578	64.754	1.71	0.146	0.144	2.20
1811 ( 8)	9.438	9.327	0.76	64.212	64.397	0.86	0.147	0.145	1.24
12 ( 9)	9.293	9.332	0.70	64.438	64.353	0.77	0.144	0.145	1.05
13 (10)	9.354	9.314	0.95	64.723	64.667	0.55	0.145	0.144	1.46
14 (11)	9.283	9.241	1.16	64.815	64.915	0.61	0.143	0.142	1.71
15 (12)	9.200	9.180	1.64	65.147	65.075	0.46	0.141	0.141	2.05
1816 (13)	9.077	9.095	1.62	65.453	64.796	1.32	0.139	0.140	1.56
17 (14)	8.984	9.027	1.24	65.238	64.021	3.00	0.138	0.141	2.49
18 (文政 1)	8.930	8.978	0.66	63.326	62.856	4.27	0.141	0.143	3.95
19 ( 2)	8.944	8.958	0.26	60.943	61.863	3.85	0.147	0.145	3.76
20 ( 3)	8.952	8.956	0.24	59.319	61.286	2.57	0.151	0.146	2.64
1821 ( 4)	8.981	8.967	0.20	60.488	61.476	3.10	0.148	0.146	2.95
22 ( 5)	8.974	8.998	0.64	62.355	62.108	3.52	0.144	0.145	3.18
23 ( 6)	8.983	9.163	3.80	64.274	63.143	2.71	0.140	0.145	3.34
24 ( 7)	9.098	9.275	3.93	64.102	63.937	1.40	0.142	0.145	3.29
25 ( 8)	9.779	9.397	3.62	64.495	64.393	0.32	0.152	0.146	3.36
1826 ( 9)	9.541			64.457			0.148		
27 (10)	9.583			64.635			0.148		
28 (11)									
29 (12)									
30 (天保 1)									
1831 ( 2)									
32 ( 3)									
33 ( 4)									
34 ( 5)									
35 ( 6)									

近世後期における大津銭相場の変動

付表1 (その4) 大津銭相場 (対大津金相場)

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場/大津金相対比 (単位1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1836 (天保 7)									
37 ( 8)									
38 ( 9)									
39 ( 10)									
40 ( 11)	9.068			61.875			0.147		
1841 ( 12)	9.161			62.196			0.147		
42 ( 13)	9.382	9.503	4.49	63.747	63.383	2.02	0.147	0.150	2.66
43 ( 14)	9.902	9.689	4.04	64.634	63.793	1.51	0.153	0.152	2.87
44 (弘化 1)	10.000	9.857	2.73	64.465	64.146	0.60	0.155	0.154	2.51
45 ( 2)	10.000	9.980	0.44	63.921	64.189	0.52	0.156	0.155	0.89
1846 ( 3)	10.000			63.963			0.156		
47 ( 4)	10.000			63.959			0.156		
48 (嘉永 1)									
49 ( 2)									
50 ( 3)	9.162			61.625			0.149		
1851 ( 4)	9.201			62.886			0.146		
52 ( 5)									
53 ( 6)									
54 (安政 1)	9.881			66.856			0.148		
55 ( 2)	10.240			68.643			0.149		
1856 ( 3)	10.428	10.324	2.67	70.046	69.534	2.61	0.149	0.148	0.46
57 ( 4)	10.517	10.505	1.88	70.664	70.692	2.13	0.149	0.149	0.38
58 ( 5)	10.555			71.459			0.148		
59 ( 6)	10.783			72.648			0.148		
60 (万延 1)									
1861 (文久 1)									
62 ( 2)									
63 ( 3)									
64 (元治 1)									
65 (慶応 1)									
1866 ( 2)									
67 ( 3)									

(出所) 大津金相場, 大津銭相場は, 鶴岡美枝子「近世米穀取引市場としての大津—近江湖東農村商人の相場帳の紹介(二)—」『史料館研究紀要』5号(1972年)において, 付表として掲げられた「自宝暦五年至安政六年大津穀類其他相場表」のうち「金(売)1両ニ付銀匁」, 「銭1貫文ニ付銀匁」の系列。

付表 2 (その 1) 大津銭相場と大津金相場の相関係数

年 次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場と大津金相場の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年移動平均	残 差	各年値	5カ年移動平均	残 差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均
1733 (享保18)										
34 ( 19)										
35 ( 20)										
1736 (元文 1)										
37 ( 2)										
38 ( 3)										
39 ( 4)										
40 ( 5)										
1741 (寛保 1)										
42 ( 2)										
43 ( 3)										
44 (延享 1)										
45 ( 2)										
1746 ( 3)										
47 ( 4)										
48 (寛延 1)										
49 ( 2)										
50 ( 3)										
1751 (宝暦 1)										
52 ( 2)										
53 ( 3)										
54 ( 4)										
55 ( 5)	14.130			59.550						
1756 ( 6)	14.225			61.590						
57 ( 7)	14.000	14.135	-0.135	61.913	61.130	0.783	-0.06			
58 ( 8)	13.910	14.371	-0.461	61.291	61.909	-0.618	0.87			
59 ( 9)	14.410	14.609	-0.198	61.304	62.424	-1.120	0.92	0.63	0.77	
60 ( 10)	15.311	14.883	0.428	63.446	62.421	1.024	0.76	0.60	0.77	
1761 ( 11)	15.413	15.195	0.217	64.166	62.698	1.468	0.66	0.39	0.88	0.79
62 ( 12)	15.371	15.407	-0.036	61.900	62.904	-1.004	-0.24	0.07	0.82	0.62
63 ( 13)	15.471	15.395	0.076	62.676	62.837	-0.161	-0.14	-0.26	0.74	0.31
64 (明和 1)	15.469	15.360	0.109	62.334	62.744	-0.410	-0.69	-0.55	-0.09	0.00
65 ( 2)	15.250	15.304	-0.054	63.109	63.082	0.027	-0.89	-0.62	-0.79	-0.28
1766 ( 3)	15.238	15.259	-0.021	63.702	63.323	0.379	-0.79	-0.79	-0.66	-0.51

近世後期における大津銭相場の変動

付表 2 (その 2) 大津銭相場と大津金相場の相関係数

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場と大津金相場の「5ヵ年移動相関係数」			
	各年値	5ヵ年移動平均	残差	各年値	5ヵ年移動平均	残差	単純相関係数	5ヵ年移動平均	残差相関係数	5ヵ年移動平均
1767 (明和 4)	15.092	15.080	0.012	63.591	63.665	-0.074	-0.60	-0.84	-0.59	-0.57
68 ( 5)	15.246	14.733	0.512	63.877	64.262	-0.385	-0.96	-0.84	-0.41	-0.44
69 ( 6)	14.575	14.354	0.221	64.046	65.028	-0.982	-0.95	-0.80	-0.40	-0.29
70 ( 7)	13.515	13.930	-0.415	66.095	66.255	-0.161	-0.92	-0.54	-0.12	-0.04
1771 ( 8)	13.342	13.419	-0.078	67.532	66.548	0.984	-0.57	-0.17	0.09	0.11
72 (安永 1)	12.973	12.882	0.091	69.727	66.188	3.539	0.70	0.21	0.65	0.24
73 ( 2)	12.692	12.580	0.113	65.339	65.207	0.131	0.89	0.57	0.32	0.36
74 ( 3)	11.888	12.197	-0.309	62.250	63.616	-1.366	0.95	0.75	0.25	0.37
75 ( 4)	12.004	11.743	0.262	61.189	61.648	-0.459	0.87	0.54	0.51	0.20
1776 ( 5)	11.427	11.289	0.138	59.575	60.856	-1.281	0.32	0.22	0.14	0.11
77 ( 6)	10.702	10.936	-0.234	59.888	60.745	-0.858	-0.34	0.09	-0.21	0.23
78 ( 7)	10.425	10.508	-0.083	61.379	60.615	0.764	-0.69	0.10	-0.13	0.29
79 ( 8)	10.123	10.140	-0.017	61.696	60.591	1.105	0.27	0.22	0.85	0.43
80 ( 9)	9.864	9.900	-0.036	60.538	60.534	0.003	0.91	0.47	0.80	0.66
1781 (天明 1)	9.587	9.759	-0.172	59.453	60.331	-0.878	0.97	0.64	0.83	0.88
82 ( 2)	9.502	9.668	-0.166	59.606	59.920	-0.314	0.86	0.77	0.96	0.91
83 ( 3)	9.718	9.642	0.076	60.364	59.660	0.703	0.21	0.78	0.97	0.95
84 ( 4)	9.671	9.558	0.113	59.639	58.809	0.830	0.91	0.73	0.98	0.97
85 ( 5)	9.732	9.531	0.201	59.239	58.085	1.154	0.97	0.65	0.98	0.95
1786 ( 6)	9.168	9.530	-0.361	55.198	57.187	-1.989	0.69	0.74	0.93	0.92
87 ( 7)	9.365	9.552	-0.187	55.983	56.424	-0.440	0.48	0.67	0.88	0.87
88 ( 8)	9.713	9.546	0.167	55.874	55.731	0.143	0.64	0.56	0.84	0.84
89 (寛政 1)	9.784	9.701	0.083	55.824	56.332	-0.508	0.59	0.38	0.72	0.69
90 ( 2)	9.699	9.769	-0.070	55.777	56.854	-1.077	0.41	0.22	0.83	0.57
1791 ( 3)	9.946	9.756	0.189	58.204	57.815	0.390	-0.22	-0.08	0.17	0.40
92 ( 4)	9.704	9.726	-0.023	58.592	58.733	-0.140	-0.34	-0.29	0.27	0.14
93 ( 5)	9.649	9.710	-0.060	60.676	59.705	0.971	-0.84	-0.40	0.03	-0.16
94 ( 6)	9.634	9.662	-0.028	60.414	60.239	0.176	-0.44	-0.49	-0.59	-0.26
95 ( 7)	9.615	9.643	-0.028	60.639	60.818	-0.179	-0.16	-0.58	-0.67	-0.30
1796 ( 8)	9.708	9.619	0.089	60.871	61.077	-0.206	-0.67	-0.58	-0.36	-0.28
97 ( 9)	9.611	9.600	0.011	61.492	61.561	-0.070	-0.77	-0.50	0.07	0.02
98 ( 10)	9.528	9.581	-0.054	61.967	62.107	-0.140	-0.85	-0.42	0.13	0.34
99 ( 11)	9.538	9.517	0.020	62.838	62.310	0.528	-0.03	-0.20	0.90	0.57
1800 ( 12)	9.523	9.480	0.043	63.366	62.654	0.712	0.26	0.05	0.94	0.66

付表 2 (その 3) 大津銭相場と大津金相場の相関係数

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場と大津金相場の「5ヵ年移動相関係数」			
	各年値	5ヵ年移動平均	残差	各年値	5ヵ年移動平均	残差	単純相関係数	5ヵ年移動平均	残差相関係数	5ヵ年移動平均
1801 (享和 1)	9.388	9.462	-0.074	61.887	62.993	-1.106	0.38	0.12	0.83	0.70
02 ( 2)	9.425	9.443	-0.018	63.214	63.228	-0.014	0.51	-0.05	0.51	0.40
03 ( 3)	9.436	9.367	0.069	63.659	63.491	0.167	-0.50	-0.28	0.30	0.11
04 (文化 1)	9.442	9.313	0.129	64.015	64.274	-0.259	-0.88	-0.45	-0.56	-0.08
05 ( 2)	9.144	9.264	-0.120	64.682	64.713	-0.031	-0.89	-0.50	-0.55	-0.09
1806 ( 3)	9.119	9.227	-0.108	65.801	65.283	0.518	-0.50	-0.50	-0.09	-0.13
07 ( 4)	9.179	9.191	-0.011	65.410	65.487	-0.077	0.27	-0.43	0.47	0.02
08 ( 5)	9.253	9.220	0.032	66.508	65.266	1.242	-0.49	-0.34	0.09	0.16
09 ( 6)	9.258	9.284	-0.026	65.033	64.948	0.085	-0.52	-0.28	0.19	0.19
10 ( 7)	9.292	9.307	-0.015	63.578	64.754	-1.176	-0.47	-0.34	0.15	0.15
1811 ( 8)	9.438	9.327	0.111	64.212	64.397	-0.185	-0.18	-0.41	0.07	-0.04
12 ( 9)	9.293	9.332	-0.039	64.438	64.353	0.085	-0.01	-0.48	0.23	-0.18
13 (10)	9.354	9.314	0.040	64.723	64.667	0.056	-0.86	-0.56	-0.84	-0.41
14 (11)	9.283	9.241	0.042	64.815	64.915	-0.100	-0.88	-0.44	-0.54	-0.59
15 (12)	9.200	9.180	0.020	65.147	65.075	0.072	-0.87	-0.31	-0.98	-0.73
1816 (13)	9.077	9.095	-0.018	65.453	64.796	0.657	0.44	-0.01	-0.83	-0.73
17 (14)	8.984	9.027	-0.043	65.238	64.021	1.216	0.62	0.21	-0.48	-0.78
18 (文政 1)	8.930	8.978	-0.048	63.326	62.856	0.470	0.64	0.32	-0.80	-0.74
19 ( 2)	8.944	8.958	-0.014	60.943	61.863	-0.920	0.19	0.35	-0.82	-0.73
20 ( 3)	8.952	8.956	-0.004	59.319	61.286	-1.967	-0.31	0.35	-0.75	-0.79
1821 ( 4)	8.981	8.967	0.014	60.488	61.476	-0.988	0.61	0.32	-0.81	-0.69
22 ( 5)	8.974	8.998	-0.023	62.355	62.108	0.248	0.63	0.40	-0.75	
23 ( 6)	8.983	9.163	-0.180	64.274	63.143	1.131	0.50	0.63	-0.31	
24 ( 7)	9.098	9.275	-0.177	64.102	63.937	0.166	0.59			
25 ( 8)	9.779	9.397	0.382	64.495	64.393	0.102	0.81			
1826 ( 9)	9.541			64.457						
27 (10)	9.583			64.635						
28 (11)										
29 (12)										
30 (天保 1)										
1831 ( 2)										
32 ( 3)										
33 ( 4)										
34 ( 5)										
35 ( 6)										



近世後期における大津銭相場の変動

付表 2 (その 4) 大津銭相場と大津金相場の相関係数

年 次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津金相場 (金一両につき銀匁)			大津銭相場と大津金相場の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年移動平均	残 差	各年値	5カ年移動平均	残 差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均
1836 (天保 7)										
37 ( 8)										
38 ( 9)										
39 ( 10)										
40 ( 11)	9.068			61.875						
1841 ( 12)	9.161			62.196						
42 ( 13)	9.382	9.503	-0.121	63.747	63.383	0.363	0.94			
43 ( 14)	9.902	9.689	0.213	64.634	63.793	0.842	0.85			
44 (弘化 1)	10.000	9.857	0.143	64.465	64.146	0.319	0.48			
45 ( 2)	10.000	9.980	0.020	63.921	64.189	-0.268	-0.74			
1846 ( 3)	10.000			63.963						
47 ( 4)	10.000			63.959						
48 (嘉永 1)										
49 ( 2)										
50 ( 3)	9.162			61.625						
1851 ( 4)	9.201			62.886						
52 ( 5)										
53 ( 6)										
54 (安政 1)	9.881			66.856						
55 ( 2)	10.240			68.643						
1856 ( 3)	10.428	10.324	0.104	70.046	69.534	0.513	0.99			
57 ( 4)	10.517	10.505	0.012	70.664	70.692	-0.028	0.99			
58 ( 5)	10.555			71.459						
59 ( 6)	10.783			72.648						
60 (万延 1)										
1861 (文久 1)										
62 ( 2)										
63 ( 3)										
64 (元治 1)										
65 (慶応 1)										
1866 ( 2)										
67 ( 3)										

付表3（その1） 大津銭相場（対大阪銭相場）

年次	大津銭相場（銭一貫文につき銀匁）			大阪銭相場（銭一貫文につき銀匁）			大津銭相場／大阪銭相場比（単位1）		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1733（享保18） 34（19） 35（20）				12.000					
1736（元文1） 37（2） 38（3） 39（4） 40（5）				18.000 17.700 21.700					
1741（寛保1） 42（2） 43（3） 44（延享1） 45（2）				15.800 14.000 13.500					
1746（3） 47（4） 48（寛延1） 49（2） 50（3）				13.450 13.700 13.720					
1751（宝暦1） 52（2） 53（3） 54（4） 55（5）				13.400 13.000 13.190 13.730 14.290					
	14.130			14.290	13.944	3.52	0.99		
1756（6） 57（7） 58（8） 59（9） 60（10）	14.225 14.000 13.910 14.410 15.311			14.390 14.120 14.040 14.850 15.400	14.114 14.338 14.560 14.754 15.000	1.81 2.22 3.89 4.43 3.88	0.99 0.99 0.99 0.97 0.99		
		14.135 14.371 15.395 14.883	1.38 3.90 4.89 4.60						
1761（11） 62（12） 63（13） 64（明和1） 65（2）	15.413 15.371 15.471 15.469 15.250	15.195 15.407 15.395 15.360 15.304	2.91 0.44 0.59 0.74 1.07	15.360 15.350 15.340 15.400 15.380	15.260 15.370 15.366 15.350 15.342	1.51 0.18 0.16 0.30 0.32	1.00 1.00 1.01 1.00 0.99	1.00 1.00 1.00 1.00 1.00	1.51 0.52 0.63 0.66 0.93
1766（3）	15.238	15.259	0.88	15.280	15.350	0.34	1.00	0.99	0.71

近世後期における大津銭相場の変動

付表3 (その2) 大津銭相場 (対大阪銭相場)

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津銭相場/大阪銭相場比 (単位1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1767 (明和 4)	15.092	15.080	1.92	15.310	15.244	1.40	0.99	0.99	0.65
68 ( 5)	15.246	14.733	4.98	15.380	14.974	3.77	0.99	0.98	1.32
69 ( 6)	14.575	14.354	6.15	14.870	14.582	6.08	0.98	0.98	1.44
70 ( 7)	13.515	13.930	6.79	14.030	14.120	7.13	0.96	0.99	1.57
1771 ( 8)	13.342	13.419	5.37	13.320	13.530	6.99	1.00	0.99	2.21
72 (安永 1)	12.973	12.882	4.98	13.000	12.968	5.93	1.00	0.99	2.14
73 ( 2)	12.692	12.580	4.96	12.430	12.570	4.55	1.02	1.00	1.29
74 ( 3)	11.888	12.197	5.14	12.060	12.190	4.76	0.99	1.00	1.29
75 ( 4)	12.004	11.743	6.28	12.040	11.732	5.77	1.00	1.00	1.28
1776 ( 5)	11.427	11.289	6.23	11.420	11.318	6.80	1.00	1.00	0.76
77 ( 6)	10.702	10.936	7.02	10.710	10.904	7.57	1.00	1.00	0.65
78 ( 7)	10.425	10.508	5.74	10.360	10.448	6.25	1.01	1.01	0.61
79 ( 8)	10.123	10.140	4.35	9.990	10.114	4.10	1.01	1.00	1.20
80 ( 9)	9.864	9.900	3.86	9.760	9.866	3.37	1.01	1.00	1.18
1781 (天明 1)	9.587	9.759	2.51	9.750	9.718	1.98	0.98	1.00	1.22
82 ( 2)	9.502	9.668	1.42	9.470	9.664	1.26	1.00	1.00	1.15
83 ( 3)	9.718	9.642	1.00	9.620	9.662	1.24	1.01	1.00	1.01
84 ( 4)	9.671	9.558	2.47	9.720	9.632	1.15	0.99	0.99	2.18
85 ( 5)	9.732	9.531	2.64	9.750	9.580	2.26	1.00	1.00	2.42
1786 ( 6)	9.168	9.530	2.63	9.600	9.608	2.41	0.96	0.99	2.28
87 ( 7)	9.365	9.552	2.84	9.210	9.596	2.35	1.02	1.00	2.46
88 ( 8)	9.713	9.546	2.79	9.760	9.556	2.18	1.00	1.00	2.62
89 (寛政 1)	9.784	9.701	2.19	9.660	9.566	2.22	1.01	1.01	1.25
90 ( 2)	9.699	9.769	1.07	9.550	9.628	0.99	1.02	1.01	1.27
1791 ( 3)	9.946	9.756	1.19	9.650	9.584	0.69	1.03	1.02	0.76
92 ( 4)	9.704	9.726	1.30	9.520	9.594	0.86	1.02	1.01	1.39
93 ( 5)	9.649	9.710	1.40	9.540	9.614	0.84	1.01	1.01	1.58
94 ( 6)	9.634	9.662	0.43	9.710	9.594	0.86	0.99	1.01	1.21
95 ( 7)	9.615	9.643	0.41	9.650	9.580	1.06	1.00	1.01	1.16
1796 ( 8)	9.708	9.619	0.67	9.550	9.566	1.18	1.02	1.01	1.13
97 ( 9)	9.611	9.600	0.76	9.450	9.424	2.65	1.02	1.02	2.38
98 ( 10)	9.528	9.581	0.83	9.470	9.378	2.31	1.01	1.02	2.11
99 ( 11)	9.538	9.517	0.85	9.000	9.352	2.12	1.06	1.02	2.40
1800 ( 12)	9.523	9.480	0.73	9.420	9.332	2.04	1.01	1.02	2.45

付表 3 (その 3) 大津銭相場 (対大阪銭相場)

年 次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津銭相場/大阪銭相場比 (単位 1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1801 (享和 1)	9.388	9.462	0.69	9.420	9.308	1.89	1.00	1.02	2.42
02 ( 2)	9.425	9.443	0.53	9.350	9.344	1.05	1.01	1.01	1.14
03 ( 3)	9.436	9.367	1.35	9.350	9.236	2.36	1.01	1.01	1.41
04 (文化 1)	9.442	9.313	1.78	9.180	9.154	2.27	1.03	1.02	1.05
05 ( 2)	9.144	9.264	1.74	8.880	9.104	1.94	1.03	1.02	1.04
1806 ( 3)	9.119	9.227	1.41	9.010	9.096	1.80	1.01	1.01	1.47
07 ( 4)	9.179	9.191	0.68	9.100	9.116	1.99	1.01	1.01	1.40
08 ( 5)	9.253	9.220	0.76	9.310	9.202	1.50	0.99	1.00	0.79
09 ( 6)	9.258	9.284	1.03	9.280	9.250	0.95	1.00	1.00	1.08
10 ( 7)	9.292	9.307	0.82	9.310	9.284	0.28	1.00	1.00	1.04
1811 ( 8)	9.438	9.327	0.76	9.250	9.270	0.30	1.02	1.01	0.98
12 ( 9)	9.293	9.332	0.70	9.270	9.230	0.95	1.00	1.01	1.06
13 (10)	9.354	9.314	0.95	9.240	9.178	1.14	1.01	1.01	0.78
14 (11)	9.283	9.241	1.16	9.080	9.132	1.26	1.02	1.01	0.78
15 (12)	9.200	9.180	1.64	9.050	9.070	1.16	1.02	1.01	0.78
1816 (13)	9.077	9.095	1.62	9.020	9.014	0.60	1.01	1.01	1.03
17 (14)	8.984	9.027	1.24	8.960	8.970	0.81	1.00	1.01	0.74
18 (文政 1)	8.930	8.978	0.66	8.960	8.950	0.64	1.00	1.00	0.50
19 ( 2)	8.944	8.958	0.26	8.860	8.934	0.47	1.01	1.00	0.48
20 ( 3)	8.952	8.956	0.24	8.950	8.920	0.48	1.00	1.00	0.57
1821 ( 4)	8.981	8.967	0.20	8.940	8.932	0.69	1.00	1.00	0.59
22 ( 5)	8.974	8.998	0.64	8.890	9.002	1.39	1.01	1.00	0.83
23 ( 6)	8.983	9.163	3.80	9.020	9.234	5.46	1.00	0.99	1.67
24 ( 7)	9.098	9.275	3.93	9.210	9.350	5.20	0.99	0.99	1.64
25 ( 8)	9.779	9.397	3.62	10.110	9.484	4.38	0.97	0.99	1.47
1826 ( 9)	9.541			9.520	9.564	3.49	1.00		
27 (10)	9.583			9.560	9.564	3.49	1.00		
28 (11)				9.420	9.420	1.45			
29 (12)				9.210	9.394	1.33			
30 (天保 1)				9.390	9.342	0.93			
1831 ( 2)				9.390	9.306	0.89			
32 ( 3)				9.300	9.288	1.22			
33 ( 4)				9.240	9.252	1.09			
34 ( 5)				9.120	9.156	1.66			
35 ( 6)				9.210	9.096	1.54			

近世後期における大津銭相場の変動

付表3 (その4) 大津銭相場 (対大阪銭相場)

年次	大津銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津銭相場/大阪銭相対比 (単位1)		
	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数	各年値	5カ年移動平均	5カ年移動変動係数
1836 (天保 7)				8.910	9.020	1.61			
37 ( 8)				9.000	8.970	1.62			
38 ( 9)				8.860	8.944	1.05			
39 ( 10)				8.870	8.984	1.29			
40 ( 11)	9.068			9.080	9.054	2.23	1.00		
1841 ( 12)	9.161			9.110	9.282	4.70	1.01		
42 ( 13)	9.382	9.503	4.49	9.350	9.508	4.85	1.00	1.00	0.59
43 ( 14)	9.902	9.689	4.04	10.000	9.692	4.44	0.99	1.00	0.59
44 (弘化 1)	10.000	9.857	2.73	10.000	9.870	2.95	1.00	1.00	0.50
45 ( 2)	10.000	9.980	0.44	10.000	10.000	0.00	1.00	1.00	0.44
1846 ( 3)	10.000			10.000	10.000	0.00	1.00		
47 ( 4)	10.000			10.000	10.000	0.00	1.00		
48 (嘉永 1)				10.000	9.830	3.87			
49 ( 2)				10.000	9.740	3.93			
50 ( 3)	9.162			9.150	9.676	3.66	1.00		
1851 ( 4)	9.201			9.550	9.642	3.34	0.96		
52 ( 5)				9.680	9.638	3.29			
53 ( 6)				9.830	9.874	3.05			
54 (安政 1)	9.881			9.980	10.054	3.26	0.99		
55 ( 2)	10.240			10.330	10.250	3.32	0.99		
1856 ( 3)	10.428	10.324	2.67	10.450	10.426	2.81	1.00	0.99	0.49
57 ( 4)	10.517	10.505	1.88	10.660	10.560	1.54	0.99	0.99	1.11
58 ( 5)	10.555			10.710	10.748	2.87	0.99		
59 ( 6)	10.783			10.650	10.956	3.61	1.01		
60 (万延 1)				11.270	11.230	5.11			
1861 (文久 1)				11.490	11.654	7.06			
62 ( 2)				12.030	12.292	8.57			
63 ( 3)				12.830	13.060	11.09			
64 (元治 1)				13.840	13.608	8.84			
65 (慶応 1)				15.110	14.024	5.85			
1866 ( 2)				14.230					
67 ( 3)				14.110					

(出所) 大阪銭相場は、新保博『近世の物価と経済発展—前工業化社会への数量的接近—』(東洋経済新報社、1978年)、171～176ページ。なお、原資料は『大阪金銀米銭為替日々相場表』など。

付表4（その1）大阪銭相場と大津銭相場の相関係数

年次	大阪銭相場（銭一貫文につき銀匁）			大津銭相場（金一両につき銀匁）			大阪銭相場と大津銭相場の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年移動平均	残差	各年値	5カ年移動平均	残差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均
1733（享保18）	12.000									
34（19）										
35（20）										
1736（元文1）	18.000									
37（2）	17.700									
38（3）	21.700									
39（4）										
40（5）										
1741（寛保1）										
42（2）	15.800									
43（3）										
44（延享1）	14.000									
45（2）	13.500									
1746（3）	13.450									
47（4）	13.700									
48（寛延1）										
49（2）										
50（3）	13.720									
1751（宝暦1）	13.400									
52（2）	13.000	13.408	-0.408							
53（3）	13.190	13.522	-0.332							
54（4）	13.730	13.720	0.010							
55（5）	14.290	13.944	0.346	14.130						
1756（6）	14.390	14.114	0.276	14.225						
57（7）	14.120	14.338	-0.218	14.000	14.135	-0.135	0.98			
58（8）	14.040	14.560	-0.520	13.910	14.371	-0.461	0.97			
59（9）	14.850	14.754	0.096	14.410	14.609	-0.198	0.97	0.97	0.89	
60（10）	15.400	15.000	0.400	15.311	14.883	0.428	0.97	0.72	0.89	
1761（11）	15.360	15.260	0.100	15.413	15.195	0.217	0.98	0.50	0.72	0.82
62（12）	15.350	15.370	-0.020	15.371	15.407	-0.036	-0.29	0.39	0.95	0.70
63（13）	15.340	15.366	-0.026	15.471	15.395	0.076	-0.14	0.31	0.64	0.55
64（明和1）	15.400	15.350	0.050	15.469	15.360	0.109	0.46	0.25	0.28	0.59
65（2）	15.380	15.342	0.038	15.250	15.304	-0.054	0.56	0.50	0.15	0.59
1766（3）	15.280	15.350	-0.070	15.238	15.259	-0.021	0.64	0.73	0.95	0.65

近世後期における大津銭相場の変動

付表4 (その2) 大阪銭相場と大津銭相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津銭相場 (金一両につき銀匁)			大阪銭相場と大津銭相場の「5ヵ年移動相関係数」			
	各年値	5ヵ年移動平均	残差	各年値	5ヵ年移動平均	残差	単純相関係数	5ヵ年移動平均	残差相関係数	5ヵ年移動平均
1767 (明和 4)	15.310	15.244	0.066	15.092	15.080	0.012	0.97	0.83	0.94	0.76
68 ( 5)	15.380	14.974	0.406	15.246	14.733	0.512	1.00	0.91	0.92	0.90
69 ( 6)	14.870	14.582	0.288	14.575	14.354	0.221	0.97	0.98	0.86	0.82
70 ( 7)	14.030	14.120	-0.090	13.515	13.930	-0.415	0.98	0.97	0.85	0.67
1771 ( 8)	13.320	13.530	-0.210	13.342	13.419	-0.078	0.97	0.96	0.53	0.63
72 (安永 1)	13.000	12.968	0.032	12.973	12.882	0.091	0.93	0.96	0.20	0.59
73 ( 2)	12.430	12.570	-0.140	12.692	12.580	0.113	0.97	0.96	0.70	0.58
74 ( 3)	12.060	12.190	-0.130	11.888	12.197	-0.309	0.97	0.97	0.70	0.66
75 ( 4)	12.040	11.732	0.308	12.004	11.743	0.262	0.98	0.98	0.78	0.81
1776 ( 5)	11.420	11.318	0.102	11.427	11.289	0.138	1.00	0.99	0.95	0.86
77 ( 6)	10.710	10.904	-0.194	10.702	10.936	-0.234	1.00	0.99	0.95	0.72
78 ( 7)	10.360	10.448	-0.088	10.425	10.508	-0.083	1.00	0.98	0.91	0.52
79 ( 8)	9.990	10.114	-0.124	10.123	10.140	-0.017	0.96	0.96	0.04	0.34
80 ( 9)	9.760	9.866	-0.106	9.864	9.900	-0.036	0.96	0.89	-0.23	0.25
1781 (天明 1)	9.750	9.718	0.032	9.587	9.759	-0.172	0.88	0.81	0.06	0.21
82 ( 2)	9.470	9.664	-0.194	9.502	9.668	-0.166	0.63	0.71	0.49	0.33
83 ( 3)	9.620	9.662	-0.042	9.718	9.642	0.076	0.61	0.63	0.71	0.48
84 ( 4)	9.720	9.632	0.088	9.671	9.558	0.113	0.48	0.57	0.60	0.60
85 ( 5)	9.750	9.580	0.170	9.732	9.531	0.201	0.53	0.56	0.55	0.64
1786 ( 6)	9.600	9.608	-0.008	9.168	9.530	-0.361	0.61	0.53	0.65	0.61
87 ( 7)	9.210	9.596	-0.386	9.365	9.552	-0.187	0.57	0.60	0.65	0.67
88 ( 8)	9.760	9.556	0.204	9.713	9.546	0.167	0.47	0.54	0.58	0.73
89 (寛政 1)	9.660	9.566	0.094	9.784	9.701	0.083	0.83	0.58	0.92	0.78
90 ( 2)	9.550	9.628	-0.078	9.699	9.769	-0.070	0.23	0.51	0.86	0.75
1791 ( 3)	9.650	9.584	0.066	9.946	9.756	0.189	0.80	0.43	0.88	0.71
92 ( 4)	9.520	9.594	-0.074	9.704	9.726	-0.023	0.21	0.11	0.53	0.52
93 ( 5)	9.540	9.614	-0.074	9.649	9.710	-0.060	0.06	0.05	0.34	0.33
94 ( 6)	9.710	9.594	0.116	9.634	9.662	-0.028	-0.75	-0.04	-0.02	-0.03
95 ( 7)	9.650	9.580	0.070	9.615	9.643	-0.028	-0.07	0.03	-0.09	-0.20
1796 ( 8)	9.550	9.566	-0.016	9.708	9.619	0.089	0.35	0.11	-0.91	-0.30
97 ( 9)	9.450	9.424	0.026	9.611	9.600	0.011	0.56	0.25	-0.35	-0.38
98 ( 10)	9.470	9.378	0.092	9.528	9.581	-0.054	0.48	0.19	-0.15	-0.46
99 ( 11)	9.000	9.352	-0.352	9.538	9.517	0.020	-0.08	0.00	-0.42	-0.29
1800 ( 12)	9.420	9.332	0.088	9.523	9.480	0.043	-0.34	-0.09	-0.46	-0.27

付表4（その3）大阪銭相場と大津銭相場の相関係数

年次	大阪銭相場（銭一貫文につき銀匁）			大津銭相場（金一両につき銀匁）			大阪銭相場と大津銭相場の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年移動平均	残差	各年値	5カ年移動平均	残差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均
1801（享和1）	9.420	9.308	0.112	9.388	9.462	-0.074	-0.60	-0.01	-0.08	-0.13
02（ 2）	9.350	9.344	0.006	9.425	9.443	-0.018	0.10	0.18	-0.24	0.11
03（ 3）	9.350	9.236	0.114	9.436	9.367	0.069	0.85	0.42	0.53	0.37
04（文化1）	9.180	9.154	0.026	9.442	9.313	0.129	0.89	0.66	0.82	0.55
05（ 2）	8.880	9.104	-0.224	9.144	9.264	-0.120	0.85	0.82	0.83	0.78
1806（ 3）	9.010	9.096	-0.086	9.119	9.227	-0.108	0.59	0.85	0.78	0.86
07（ 4）	9.100	9.116	-0.016	9.179	9.191	-0.011	0.92	0.75	0.92	0.66
08（ 5）	9.310	9.202	0.108	9.253	9.220	0.032	0.98	0.43	0.92	0.42
09（ 6）	9.280	9.250	0.030	9.258	9.284	-0.026	0.41	0.18	-0.18	0.15
10（ 7）	9.310	9.284	0.026	9.292	9.307	-0.015	-0.74	0.04	-0.34	-0.14
1811（ 8）	9.250	9.270	-0.020	9.438	9.327	0.111	-0.66	-0.01	-0.60	-0.41
12（ 9）	9.270	9.230	0.040	9.293	9.332	-0.039	0.21	0.07	-0.50	-0.43
13（10）	9.240	9.178	0.062	9.354	9.314	0.040	0.73	0.40	-0.42	-0.36
14（11）	9.080	9.132	-0.052	9.283	9.241	0.042	0.79	0.72	-0.32	-0.41
15（12）	9.050	9.070	-0.020	9.200	9.180	0.020	0.90	0.85	0.05	-0.38
1816（13）	9.020	9.014	0.006	9.077	9.095	-0.018	0.98	0.84	-0.86	-0.31
17（14）	8.960	8.970	-0.010	8.984	9.027	-0.043	0.82	0.73	-0.36	-0.23
18（文政1）	8.960	8.950	0.010	8.930	8.978	-0.048	0.70	0.52	-0.07	-0.21
19（ 2）	8.860	8.934	-0.074	8.944	8.958	-0.014	0.25	0.45	0.07	0.14
20（ 3）	8.950	8.920	0.030	8.952	8.956	-0.004	-0.14	0.47	0.19	0.39
1821（ 4）	8.940	8.932	0.008	8.981	8.967	0.014	0.60	0.53	0.88	0.60
22（ 5）	8.890	9.002	-0.112	8.974	8.998	-0.023	0.93	0.67	0.86	
23（ 6）	9.020	9.234	-0.214	8.983	9.163	-0.180	0.99	0.89	0.97	
24（ 7）	9.210	9.350	-0.140	9.098	9.275	-0.177	0.97			
25（ 8）	10.110	9.484	0.626	9.779	9.397	0.382	0.94			
1826（ 9）	9.520	9.564	-0.044	9.541						
27（10）	9.560	9.564	-0.004	9.583						
28（11）	9.420	9.420	0.000							
29（12）	9.210	9.394	-0.184							
30（天保1）	9.390	9.342	0.048							
1831（ 2）	9.390	9.306	0.084							
32（ 3）	9.300	9.288	0.012							
33（ 4）	9.240	9.252	-0.012							
34（ 5）	9.120	9.156	-0.036							
35（ 6）	9.210	9.096	0.114							



近世後期における大津銭相場の変動

付表4 (その4) 大阪銭相場と大津銭相場の相関係数

年次	大阪銭相場 (銭一貫文につき銀匁)			大津銭相場 (金一両につき銀匁)			大阪銭相場と大津銭相場の「5カ年移動相関係数」			
	各年値	5カ年移動平均	残差	各年値	5カ年移動平均	残差	単純相関係数	5カ年移動平均	残差相関係数	5カ年移動平均
1836 (天保 7)	8.910	9.020	-0.110							
37 ( 8)	9.000	8.970	0.030							
38 ( 9)	8.860	8.944	-0.084							
39 (10)	8.870	8.984	-0.114							
40 (11)	9.080	9.054	0.026	9.068						
1841 (12)	9.110	9.282	-0.172	9.161						
42 (13)	9.350	9.508	-0.158	9.382	9.503	-0.121	0.99			
43 (14)	10.000	9.692	0.308	9.902	9.689	0.213	0.99			
44 (弘化 1)	10.000	9.870	0.130	10.000	9.857	0.143	0.99			
45 ( 2)	10.000	10.000	0.000	10.000	9.980	0.020				
1846 ( 3)	10.000	10.000	0.000	10.000						
47 ( 4)	10.000	10.000	0.000	10.000						
48 (嘉永 1)	10.000	9.830	0.170							
49 ( 2)	10.000	9.740	0.260							
50 ( 3)	9.150	9.676	-0.526	9.162						
1851 ( 4)	9.550	9.642	-0.092	9.201						
52 ( 5)	9.680	9.638	0.042							
53 ( 6)	9.830	9.874	-0.044							
54 (安政 1)	9.980	10.054	-0.074	9.881						
55 ( 2)	10.330	10.250	0.080	10.240						
1856 ( 3)	10.450	10.426	0.024	10.428	10.324	0.104	0.98			
57 ( 4)	10.660	10.560	0.100	10.517	10.505	0.012	0.80			
58 ( 5)	10.710	10.748	-0.038	10.555						
59 ( 6)	10.650	10.956	-0.306	10.783						
60 (万延 1)	11.270	11.230	0.040							
1861 (文久 1)	11.490	11.654	-0.164							
62 ( 2)	12.030	12.292	-0.262							
63 ( 3)	12.830	13.060	-0.230							
64 (元治 1)	13.840	13.608	0.232							
65 (慶応 1)	15.110	14.024	1.086							
1866 ( 2)	14.230									
67 ( 3)	14.110									